

検査項目の説明

血液一般・貧血	
白血球	病原体から体を守る役割を持ち、感染症などの炎症性疾患や白血病などの血液疾患で異常値を示します。また、過度の喫煙でも上昇することがあります。喫煙者で白血球が多い方は節煙あるいは禁煙後、再検してください。
血液像	白血球はそれぞれ役割の異なった数種類の細胞から成り、血液像はこれらの内訳を表しています。 Neut(好中球) : 感染症や急性の炎症で増加し、以下二種類があります。 Stab(桿状核球) : 幼若な好中球で炎症が強いときに増加します。 Seg(分葉核球) : 成熟した好中球です。 Lymph(リンパ球) : ウイルス感染症などで増加します。 Mono(単球) : 結核などで増加します。 Eosino(好酸球) : アレルギー疾患や寄生虫症などで増加します。 Baso(好塩基球) : 増加はまれですが、骨髄性白血病などで増加します。
赤血球・ヘモグロビン・ヘマトクリット	赤血球中のヘモグロビンは酸素を運搬する重要な役割を担っています。 ヘマトクリットは血液中の赤血球濃度を表します。 いずれも主に貧血を調べる検査で、血液疾患の他、鉄分の摂取不足や出血、悪性腫瘍の存在で減少することがあります。
MCV・MCH・MCHC	MCVは1個の赤血球の容積、MCHは1個の赤血球中のヘモグロビン量、MCHCは赤血球内のヘモグロビン濃度を表し、貧血のタイプ・原因を調べるために用います。
血小板	血管の損傷部位に付着し、凝集して止血する役割を持っています。減少すると出血傾向、過剰になると血栓形成の原因となります。血液疾患の他、慢性肝炎、肝硬変、感染症などでも減少することがあり、リウマチなどの慢性炎症や悪性腫瘍が増加することがあります。
血清鉄・TIBC(総鉄結合能)	血液中の鉄分はヘモグロビンの原料となるため、低下すると貧血の原因となります。偏食による鉄分摂取不足や胃切除後の吸収障害、月経過多などでも低下します。TIBCは、鉄と結合できる血中蛋白の総量を主に貧血の診断で利用します。

糖代謝検査	
血糖	血糖値は、血液内のグルコース(ブドウ糖)濃度であり、体のエネルギー源として大切な役割をしています。主にインスリンというホルモンにより、血糖値は一定の範囲内にコントロールされており空腹時109mg/dL以下が標準です。110mg/dL以上では糖尿病の可能性があり、糖負荷試験による精密検査をする必要があります。
HbA1c	ブドウ糖と結合した赤血球ヘモグロビンの割合です。過去1~2カ月間の平均的血糖値を反映するので、糖尿病患者の血糖値コントロールの評価に用います。また、6.5%以上であれば糖尿病型と判定します。

脂質代謝検査	
総コレステロール	血中に含まれる脂質で、HDLコレステロール(善玉)やLDLコレステロール(悪玉)などの和を表しています。ホルモンや細胞膜を作るうえで大切なものですが、増えすぎると動脈硬化を進展させる原因となります。
HDLコレステロール	善玉コレステロールといわれるもので血管にたまったコレステロールを肝臓に運び、動脈硬化を予防する働きがあります。
LDLコレステロール	肝臓で合成されたコレステロールを全身へ運ぶ役割を担っていますが、増えすぎると動脈硬化を進行させて脳梗塞や心筋梗塞の原因となります。悪玉コレステロールとも呼ばれています。高LDLコレステロール血症は140mg/dL以上ですが、120~139mg/dLは境界域高LDLコレステロール血症と定義され、年齢、喫煙、高血圧などの併存疾患などから高リスクと判定された場合は、治療を検討するべきとされています。
中性脂肪	過食過飲や運動不足で上昇し、高い状態が続くと皮下脂肪や内臓脂肪になって体重が増加したり、動脈硬化を進展させたりして、脳梗塞や心筋梗塞の原因になります。

尿酸代謝検査	
尿酸	蛋白質の一種であるプリン体が代謝される際に生じるものが尿酸で、飲酒や肉食、腎機能障害時に上昇します。高い状態が続くと、結晶として関節に蓄積して痛風発作と呼ばれる関節痛を起こします。また腎結石の原因になることがあります。

肝機能検査	
AST(GOT)・ALT(GPT)	いずれも蛋白質の元となるアミノ酸を合成する酵素です。主に肝臓に多く含まれているため、肝機能検査として重要な項目であり、ウイルス性肝炎や、アルコール性肝障害、脂肪肝などで上昇します。また、AST(GOT)は心臓や骨格筋にも存在するため、心筋梗塞や筋肉疾患、激しい運動後でも上昇することがあります。
γ-GT(γ-GTP)・LAP・ALP	胆道系の酵素で、肝障害以外に胆石や胆道閉塞性疾患、膵疾患などで上昇します。過飲によるγ-GT(γ-GTP)単独の上昇がある場合は飲酒を控えてください。ALPは骨にも存在するため、骨疾患や悪性腫瘍、妊娠末期で上昇することがあります。
コリンエステラーゼ	肝臓で合成される酵素で、肝臓の蛋白質合成能を反映しています。肝炎や肝硬変、低栄養状態や貧血などで低下しますが、肥満や脂肪肝では上昇することがあります。
LDH	ブドウ糖がエネルギーに変わる際に働く酵素です。主に肝臓に多く含まれており、肝障害時にAST(GOT)、ALT(GPT)とともに上昇します。エネルギーを得るのに重要な酵素で、筋肉や他の臓器にも広く存在するため、肺や心疾患、筋疾患、悪性疾患や激しい運動の後でも上昇することがあります。

肝炎ウイルス検査	
HBs抗原(B型肝炎S抗原)	HBs抗原が陽性で肝機能が正常の場合、生来のB型肝炎ウイルス保持者で無症状の状態と考えられます。将来B型肝炎を発症する可能性があります。専門医にご相談ください。
HBs抗体(B型肝炎S抗体)	HBs抗原が陰性でHBs抗体が陽性の場合、B型肝炎ウイルスに感染後、治癒したことを示しており、臨床的に問題ありません。B型肝炎のワクチン接種後に抗体ができた場合にも陽性となります。
HCV抗体	HCV抗体陽性の場合、C型肝炎ウイルスに感染している可能性があります。現在無症状でも将来活動性慢性肝炎や肝硬変に進行することがありますので、専門医にご相談ください。

膵機能検査	
血清アミラーゼ	炭水化物(でんぷん)を分解する消化酵素で、唾液や膵液に含まれます。膵臓、唾液腺の炎症や障害時に上昇します。
リパーゼ	脂肪を分解する消化酵素で、膵臓から分泌されます。膵臓の炎症や障害時に上昇するので、膵炎・膵疾患の補助診断に用います。
尿中アミラーゼ	血清アミラーゼが高値の場合に膵炎に由来するのか、腎不全等による排出低下に由来するのかの判定に用います。